

第1章：地域の現況

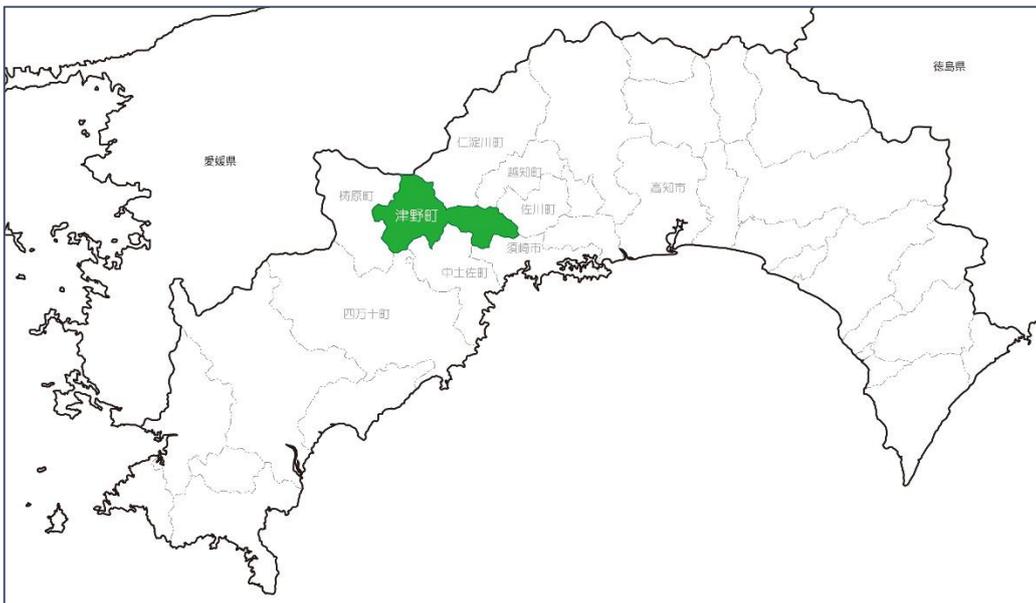
1. 位置及び地勢

1) 位置及び地勢

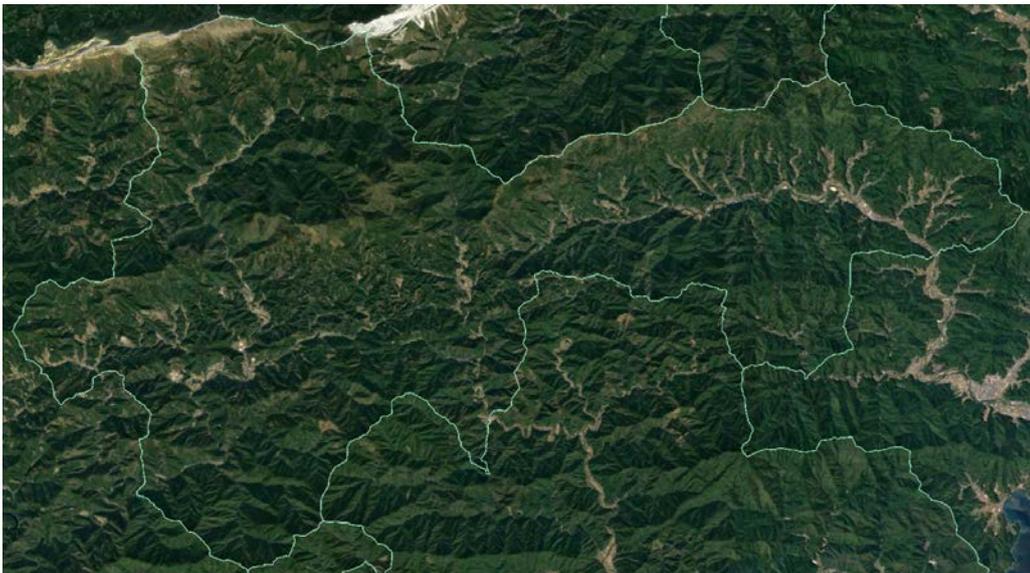
津野町（以下：本町）は高知県中央地域西部に位置しており、総面積は 197.85 km²である。須崎市、中土佐町、四万十町、梶原町、仁淀川町、越知町、佐川町、そして愛媛県久万高原町と多くの自治体に隣接しているが、国道 197 号により特に須崎市及び梶原町との結びつきが強い。

総面積の約 90%が林野で占められており、本町中心部を東西につなぐ国道 197 号沿線に人口が集まっている。

図：津野町の位置図



図：津野町の地形（衛星写真より）



出典：Google Earth より

2. 人口及び世帯数の推移

1) 人口の推移

本町の人口及び世帯数は、一貫して減少傾向にある。昭和30年には14,556人（旧葉山村：8,306人、旧東津野村：6,250人）の人口を抱えていたが、最新の国勢調査結果（平成27年度）では、その約4割にまで減少している。

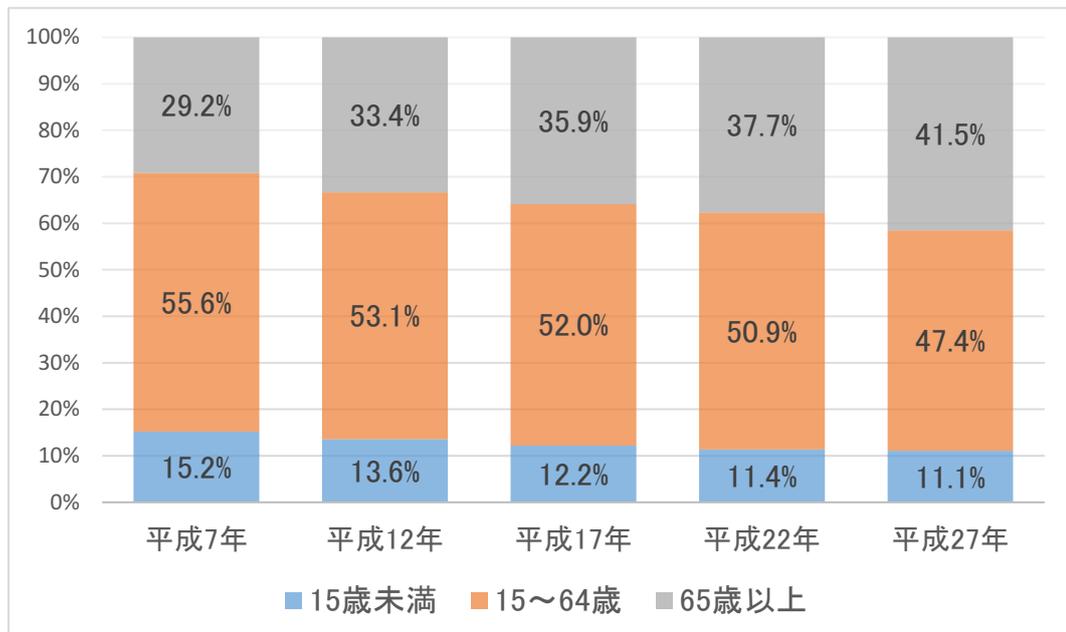
年齢3区分の推移を見ると、65歳以上の人口割合は増大しているが、その他は低減が続いていることから、今後も人口は減少し続けるものと予想される。

表：津野町の人口と世帯数の推移

| | S60 | H2 | H7 | H12 | H17 | H22 | H27 |
|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 人口 (人) | 8,354 | 8,000 | 7,554 | 7,258 | 6,862 | 6,407 | 5,794 |
| 増減率 (%) | -4.1 | -4.2 | -5.6 | -3.9 | -5.5 | -6.6 | -9.6 |
| 世帯数 (世帯) | 2,488 | 2,476 | 2,456 | 2,445 | 2,430 | 2,406 | 2,297 |

出典：国勢調査結果より

図：年齢3区分の推移



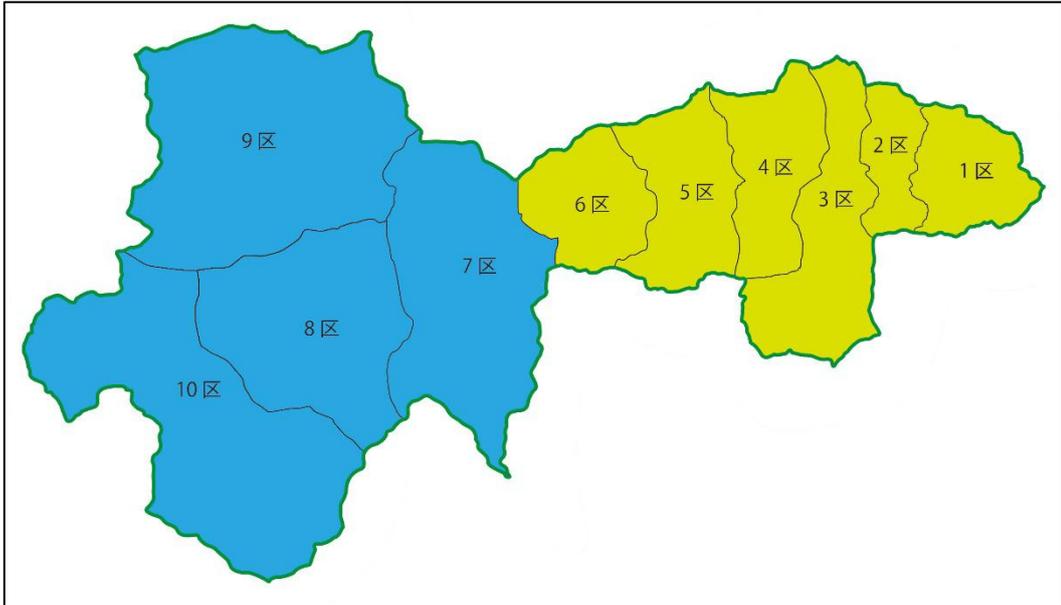
出典：国勢調査結果より

2) 地区別居住者数

地区別に人口と見ていくと、東地区では2区（姫野々を中心とする地区）が最も人口が多く、平成17年と27年を比較しても唯一増加している。

全体的には2区を除く全ての地区で人口減少となっており、特に8区（新田から北方面郷地区周辺）は最も減少率が高くなっている。

図：地区の分布

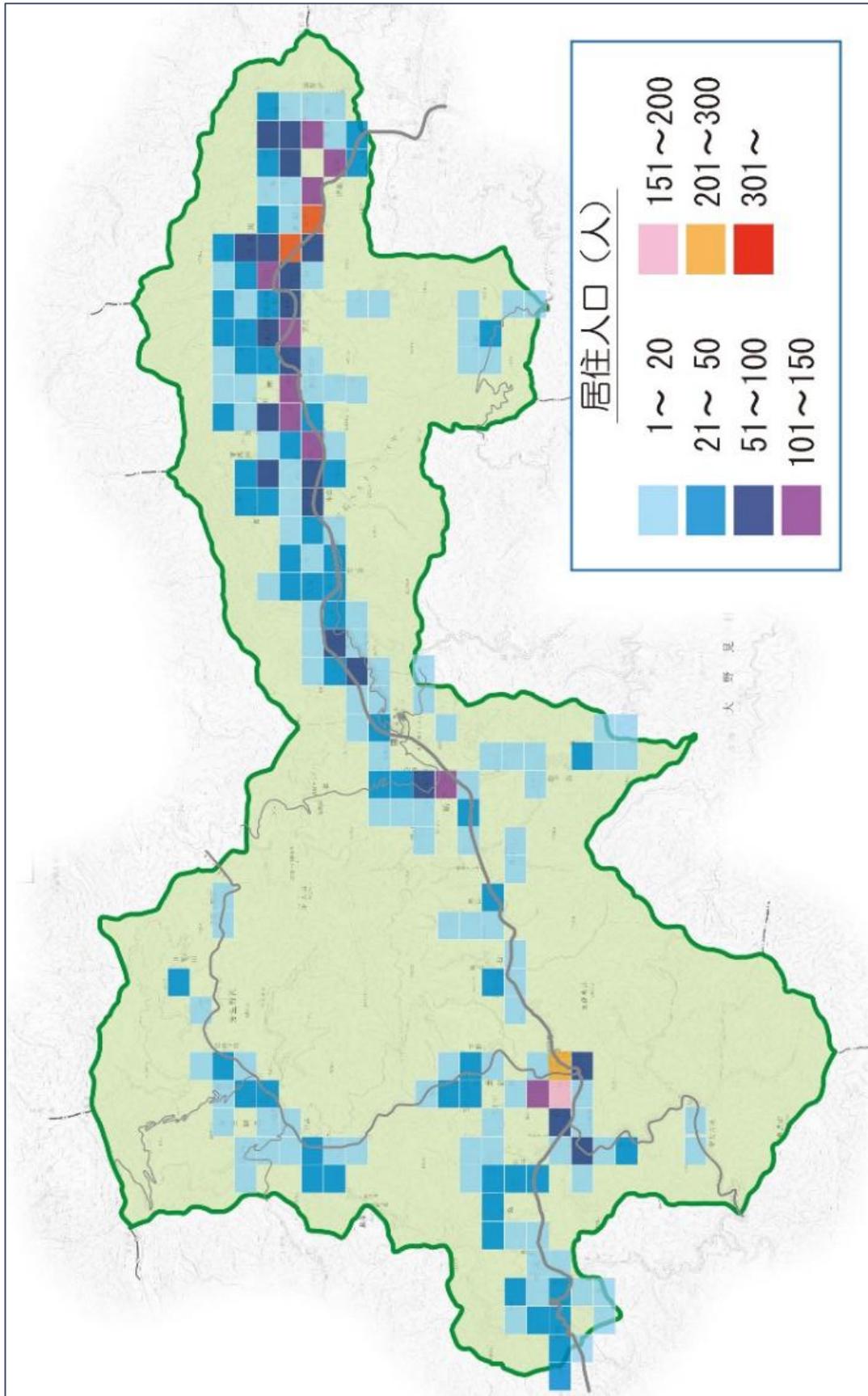


表：地区別の人口の推移

| 地区 | | 平成17年 | 平成22年 | 平成27年 | H22/H27 |
|--------------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 東地区 旧葉山村 | 1区 | 789 | 737 | 654 | 0.83 |
| | 2区 | 1,068 | 1,059 | 1,093 | 1.02 |
| | 3区 | 643 | 574 | 545 | 0.85 |
| | 4区 | 839 | 761 | 670 | 0.80 |
| | 5区 | 605 | 542 | 486 | 0.80 |
| | 6区 | 506 | 475 | 408 | 0.81 |
| | 小計 | 4,450 | 4,148 | 3,856 | 0.87 |
| 西地区 旧東津野村 | 7区 | 593 | 564 | 496 | 0.84 |
| | 8区 | 1,043 | 942 | 816 | 0.78 |
| | 9区 | 442 | 409 | 374 | 0.85 |
| | 10区 | 719 | 679 | 643 | 0.89 |
| | 小計 | 2,797 | 2,594 | 2,329 | 0.83 |
| 合計 | 7,247 | 6,742 | 6,185 | 0.85 | |

出典：住民基本台帳（平成28年10月1日現在）より

図：人口の分布 [平成 22 年国勢調査結果より]



3) 産業別人口

本町の産業3部門別就業者数を見ると、第3次産業の就業者数が最も多くなっている。平成17年と22年を比較すると、第1次産業就業者数が増加している。

表：産業3部門別就業者数とその構成比

| | 平成17年 | | 平成22年 | |
|----------|-------|-------|-------|-------|
| | 人 | % | 人 | % |
| 第1次産業就業者 | 763 | 23.2% | 934 | 29.0% |
| 第2次産業就業者 | 1,012 | 30.7% | 838 | 26.0% |
| 第3次産業就業者 | 1,518 | 46.1% | 1,448 | 45.0% |
| 合計 | 3,293 | | 3,220 | |

出典：国勢調査結果より

4) 通勤・通学流動

本町を基準に通勤と通学の流動を見てみると、通勤や通学により町外に流出している人の数は1,065人で逆に本町に流入している人の数337人と比較して約3倍となっている。

通勤の流出先としては、須崎市が最も多く483人、次いで高知市107人、梶原町90人となっている。通学でも須崎市や高知市への流出が多くなっている。

通勤の流入では、須崎市140人、梶原町87人、中土佐町27人と続いている。通学を理由として本町に流入してくる移動は1人となっている。

表：津野町からの流出

| 自治体 | 小計 | 通勤 | 通学 |
|------|------|-----|-----|
| 高知市 | 170 | 107 | 63 |
| 南国市 | 18 | 12 | 6 |
| 土佐市 | 28 | 26 | 2 |
| 須崎市 | 584 | 483 | 101 |
| 中土佐町 | 51 | 51 | - |
| 佐川町 | 15 | 15 | - |
| 梶原町 | 106 | 90 | 16 |
| 日高村 | 10 | 3 | 7 |
| 四万十町 | 22 | 19 | 3 |
| その他 | 61 | 55 | 11 |
| 計 | 1065 | 861 | 209 |

表：津野町への流入

| 自治体 | 小計 | 通勤 | 通学 |
|------|-----|-----|----|
| 高知市 | 25 | 25 | - |
| 土佐市 | 21 | 21 | - |
| 須崎市 | 140 | 140 | - |
| 中土佐町 | 27 | 27 | - |
| 梶原町 | 87 | 87 | - |
| 四万十町 | 10 | 10 | - |
| その他 | 27 | 26 | 1 |
| 計 | 337 | 336 | 1 |

出典：平成22年国勢調査結果より

※ 通学人数には、15歳未満の子どもの流動も含む。

※ 通勤・通学の合計で、10人未満の流動については、その他として一括した。

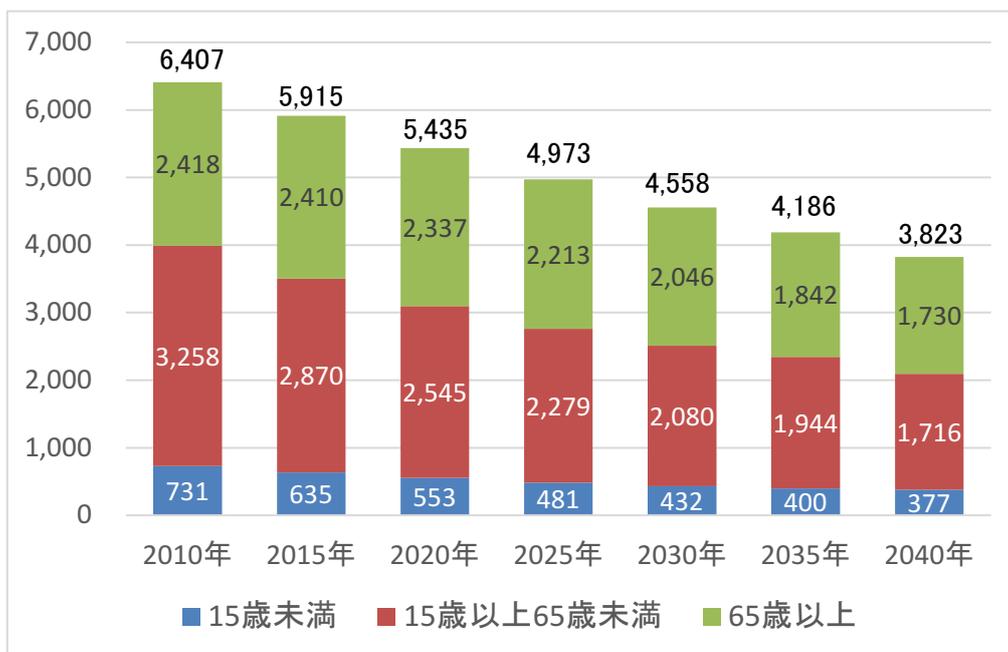
5) 将来人口

本町の将来人口の推計を見てみると、一貫して減少し続けると予測されている。

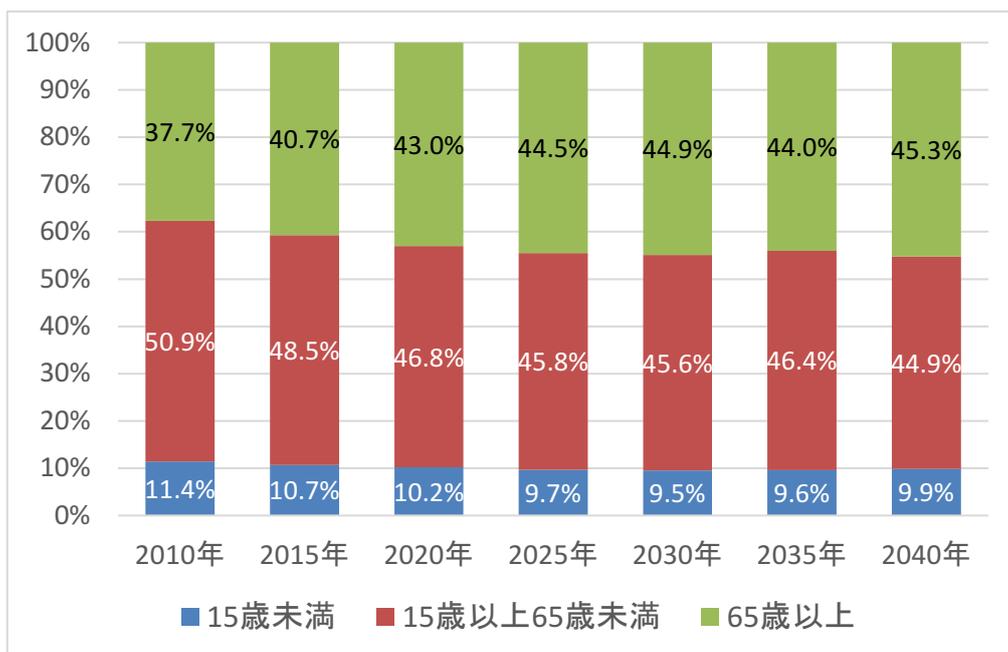
2015年には5,915人であったものが、25年後の2040年には3,823人まで約35%減少すると予測されている。

高齢化率は増大の一途を示しており、2040年には45.3%になると予測されている。

図：津野町の将来人口予測



出典：国立社会保障・人口問題研究所資料より



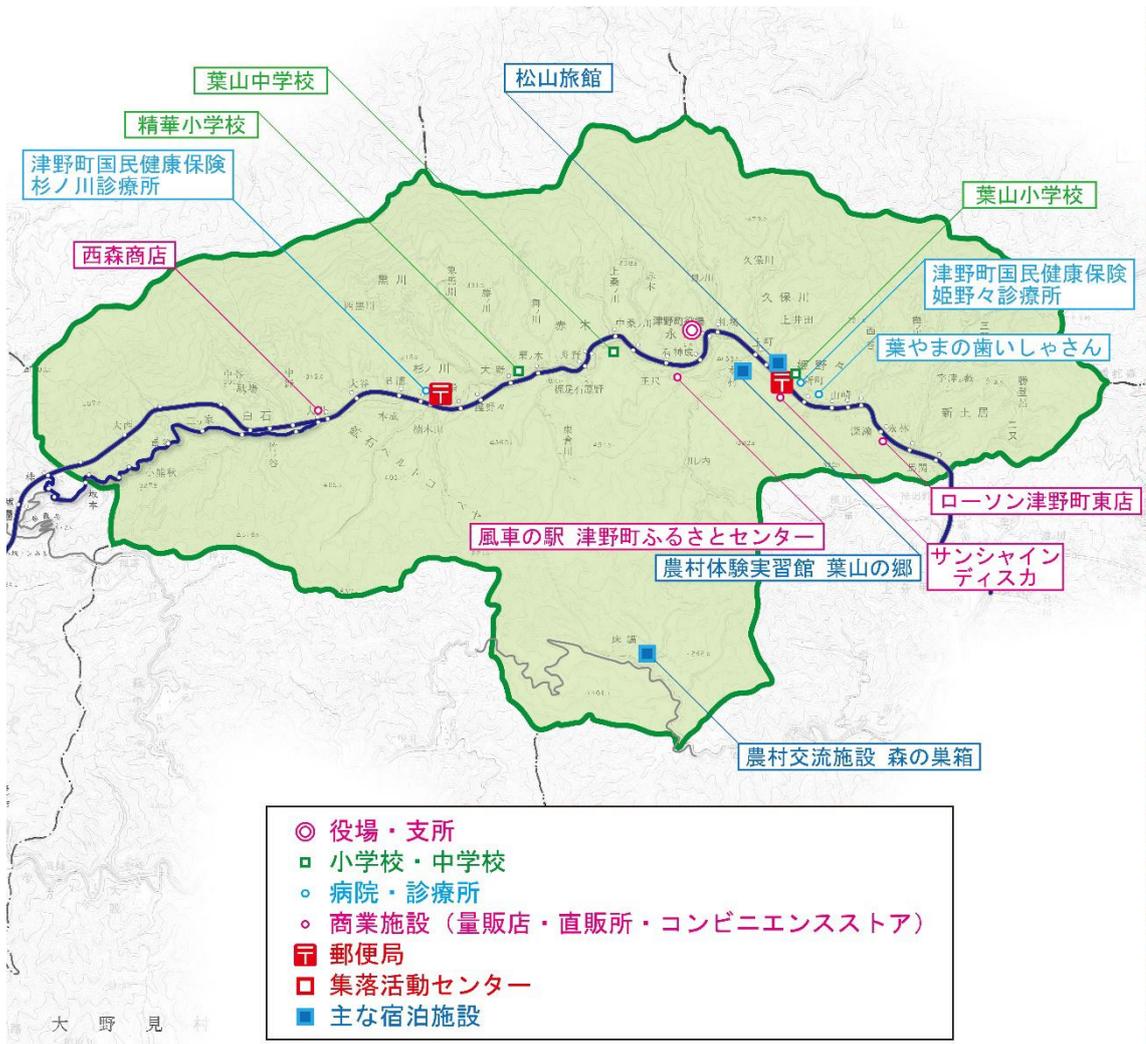
出典：国立社会保障・人口問題研究所資料より

3. 主要施設の分布

1) 東地区（旧葉山村）の施設分布

東地区の主な集客施設は姫野々地区に集まって立地している。

町内で最も大きな量販店である「サンシャインディスカ」が姫野々にあり、そこから徒歩圏内に「姫野々診療所」や「郵便局」が立地している。他にも金融機関の支店や飲食店も立地している。



2) 西地区（旧東津野村）の施設分布

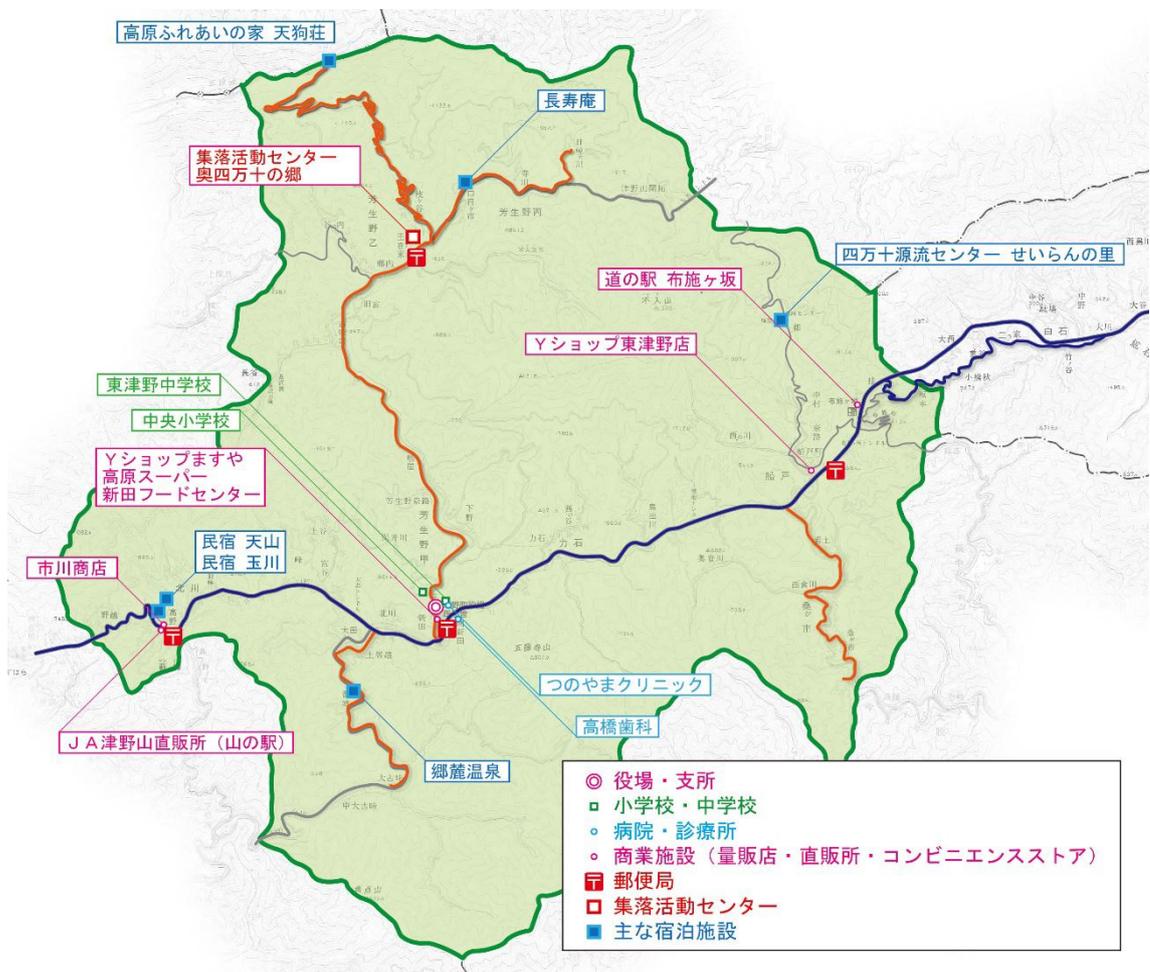
西地区の主な集客施設は新田地区に集中している。

医療施設は、新田にある「つのやまクリニック」と「高橋歯科」のみとなっている。

また、商業施設も多くが新田地区に立地している。

学校施設も全てが新田地区に立地している。

東地区に比べて宿泊施設が多くなっている。



4. 地域の現況から見る移動手段確保の視点における考察

① 人口減少が加速している

本町は人口減少が続いており、既に消滅した集落や消滅しかけている集落もある。最新の国勢調査結果では、人口の減少率がそれまでより大きくなっている。人口の減少により、集落の維持や、公共交通網の維持が難しくなることが予想される。

② 人口減少と合わせて高齢化が進行している

本町の子どもの割合は約 1 割であるが、高齢者の割合は 4 割を超えている。地区住民の高齢化により相互に助け合う仕組みが崩れた時、移動手段の確保はより深刻な問題となることが予想される。

③ 公共交通空白地区が多数存在している

東地区では、国道 197 号から南北に多くの谷筋が伸びており、集落が点在しているが、公共交通はタクシーしかないため、自家用車の運転が出来なくなると移動する機会が減少することになりかねない。現状では、高知高陵交通のバスに乗りたくてもバス停までの移動が困難な町民が多数存在している状況となっている。

④ 同じ地区にも関わらずかなりの高低差が生じている

特に東地区の谷筋では、入口部分と奥の部分で大きな高低差があるところが多く、独自の移動手段を持たない人には外出の阻害要因になっていることが予想される。



写真：宇津が藪地区の奥より



写真：大西地区の県道より

⑤ 通勤や通学で町外に出る人が多い

本町から通勤や通学で町外に毎日流出している人が、逆に本町に流入する人に比べて多くなっている。通学での流出は、高等学校がないことが大きく影響している。

⑥ 徒歩圏内に買い物の場がない地区が多い

本町の買い物の場として、東地区では姫野々地区に、西地区には新田地区にそれぞれまとまった量販店や商店が立地している。規模の小さな商店も他に点在しているものの、徒歩圏内に買い物ができる場がない地区が多数を占めている。